

十億の  
(暁烏  
敏)

作者 明治、昭和期の真宗大谷派の僧。石川県出身。法名は恵佑。真宗大卒。清沢満之に師事し浩々洞に入門。明治三十四年「精神界」を発刊。主筆を務め仏教近代化の運動を行った。本山から異安心の戒告を受け浩々洞解散のち帰郷し布教、著作活動に専心。昭和二十六年宗務総長となり宗門改革を進めた。

解説 浄土真宗の僧侶・暁烏敏が、自分の母親が亡くなった時に詠よんだ歌。

十億の  
人に  
十億の  
母  
あるも

我が  
母に  
優る  
母  
あら  
めやも

語釈 ※十億＝数字ではなくとも多いと言う表現。  
※めやも＝詠嘆を表わす係助詞「も」の付いたもの。「めや」の反語の意に詠嘆の意が加わったもの。くすることがあるうか、いやそんなことはない。どうしてくでなどあるうか。

通釈 十億の人には十億の母がある。しかし自分の母親にまさる母親があるだろうか。

(ほかの人のどんなに素晴らしい、立派な母親でも 自分の母親ほど自分に愛情をそそいでくれる人はこの世のなかにいない、ああ、お母さん、ありがとうございます という深い詠嘆がこめられています)